

視察研修報告書 市民ネットワーク北海道

| | |
|--|--------------------------------|
| 期 間 | 令和元年 11月 12日 ~ 令和元年 11月 14 日まで |
| <視察者> 鶴谷聰美 佐々木百合香 | |
| 調査地選定理由 | |
| <p>① 11/12 野洲市 田中陽介市議会議員訪問／おうみ市民放射能測定所 広報担当 調査内容：「放射能副読本」回収の取り組み 【選定理由】文科省から学校へ配布された「放射能副読本」について、回収に至る議会活動詳細を調査 おうみ市民放射能測定所の運営について調査</p> | |
| <p>② 11/13 守山市 NPO法人 碧いびわ湖 調査内容：子ども参画の環境活動 【選定理由】北広島の豊かな自然環境を未来に継ぐため、子どもの頃からの環境活動体験が重要と考え、琵琶湖の環境を守る活動に子ども参画で取り組む団体を調査</p> | |
| <p>③ 11/13 大津市 NPO法人こどもソーシャルワークセンター 調査内容：子どもの居場所づくり事業 【選定理由】内閣府主催「子どもの貧困対策に関する検討会」（2015年）においてプレゼンテーションに登壇した団体であり、本市の子どもの貧困対策の参考のため調査</p> | |
| <p>④ 11/14 兵庫県 自主見学および入館観覧 明石市 あかしこども広場ユーススペース 【選定理由】担当部署の都合により行政視察が叶わなかったため</p> | |
| <p>⑤ 11/14 神戸市 人と未来防災センター 【選定理由】担当部署の都合により行政視察が叶わなかったため</p> | |

| | |
|--|------------|
| 1 11/12 「放射能副読本」回収の取り組み | 報告者 佐々木百合香 |
| 対応者：野洲市議会 田中陽介議員 おうみ市民放射能測定所 広報担当 | |
| <p>「放射線副読本」は 2011 年 2 月、文部科学省と経済産業省が約 2 億円をかけて制作した児童・生徒向けの冊子です。同年 3 月に東京電力福島第一原子力発電所事故が起り、放射線の安全性や有効性を前面に出した内容が批判を受けたことから、内容を一部変えた改訂版が 2012 年 11 月上旬に全国の小学校、中学校、高校に約 8 万部配布されました。改訂版においても「福島第一原発事故について一切触れられておらず、原爆や JCO 臨界事故などで死者が出たことについての記述がない」との批判がおこりました。その声に押され、2014 年版は福島第一原発事故と被害についての項目を巻頭においたものとなりました。</p> <p>野洲市で回収となったのは 2018 年 10 月に文部科学省が作成した再改定版です。文科省は全国の小学校に約 700 万部、中学、高校に約 750 万部を配布。その方法は、自治体の教育委員会を通さず直接配布するという異例なものでした。原発事故については深刻な土壌汚染の実態には触れず「事故後 7 年で福島県内の空間線量が減少した」ことのみを述べています。</p> <p>田中陽介市議は「放射線副読本が届いたが、子ども達にどんなタイミングで配ればよいか学校側が困惑し、市教委に問い合わせが来ている」という情報を得てこの放射線副読本を手に取ったそうです。</p> <p>「おうみ市民放射能測定所」のメンバーでもある田中市議は、「副読本は放射能汚染による被害を矮小化している」と感じ、2019 年 3 月、副読本に批判的な立場から一般質問。「市内小中学校の副読本への対応」と「副読本配布の背景、目的、内容を理解した上で対応だったのか」を問い合わせ、「自然放射能と人工放射能は全く違う。副読本ではそれを同列に扱い安全性を強調」と指摘しました。野洲市教育委員会は「副読本の内容は国が組織として作ったもの」としつつ、「これを授業に使うという部分については少し問題がある」と答え、その後放射線副読本を回収しました。副読本を回収した背景のひとつとして田中市議は「市長も副読本の内容に原爆や第五福竜丸の記述がない点を問題だと考えていた」と振り返りました。</p> <p>学校での配布を依頼されるものは様々ですが、内容によっては児童・生徒がうまく読み解くことができず、結果的に誤った認識を持つてしまう可能性もあります。正確な情報を共有していくような配慮が必要だと感じました。</p> <p>おうみ市民放射能測定所の見学は移転直後とのことで叶いませんでしたが、西日本の市民放射能測定所がネットワークでつながり、測定に関する情報交換をしていることを伺い、クロスチェック（同じ検体を違う測定器で測定すること）などの確認に役立ち、測定スタッフの研鑽にもなる取り組みだと感じました。</p> <p>また、おうみ市民放射能測定所が立ち上げの際、「測定料のみで年会費を求める料金体系」でスタートしたため、測定件数の減少により運営にご苦労されていることを伺い、原発事故の記憶や教訓の風化について懸念を感じました。</p> | |

| | |
|--|---------------|
| 2 11/13 子ども参画の環境活動 ／守山市 特定非営利活動法人 碧いびわ湖 | 報告者 佐々木百合香 |
| 対応者：特定非営利活動法人 碧いびわ湖 常務理事 恒平 | |
| 守山市あまが池プラザ内ホール及び隣接の小川にて ホタルが自生する河川環境づくり | |

「碧いびわ湖」の活動の原点は琵琶湖のせっけん運動。身近な人と力を活かし合う自治を大切にしています。開発により一度は絶滅した自生のホタルですが、守山市中心市街地活性化計画(第2期)の取り組みとして、2016年1月より小学校前の親水緑地で「ほたるが自生できる河川環境づくり」をスタート。高校、小学校、まちづくり会社、専門家、行政、子どもや若い世代の参加など、碧いびわ湖の活動は、関係する多様な人々との情報共有や協力関係づくりのコーディネーターとして、重要な役割を担っています。現地視察では、幼虫が上陸して蛹化できる環境を作るためのバーブ工や、ホタルが昇ってこられるように配置されたネットやプランターを見ることができました。ホタルに配慮した浚渫に、治水を心配する地域の理解を得るまでのお話も伺い、多様な市民との協働（※印）や学び合いのプロセスがいかに大切なことを知ることができました。

※株式会社みらいもりやま 21 ... 「あまが池プラザ」施設運営会社
ゼネラルマネージャー 石上 僚 ／ あまが池プラザ施設長 中村 智美



| | |
|---|-------------|
| ③11/13 子どもの居場所づくり事業 / 大津市 特定非営利活動法人 こどもソーシャルワークセンター | 報告者 鶴谷聰美 |
| 対応者：特定非営利活動法人 こどもソーシャルワークセンター | |
| 理事長 幸重忠孝 | |
| 独立型社会福祉事務所（京都市）での、子どもの居場所づくりや支援活動等を経て、2016年4月大津市観音寺の住宅街に「こどもソーシャルワークセンター」を開設。学校生活や家庭状況が困難な環境にある子どもや若者を対象に、様々な支援事業に取り組んでいます。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大津市生活困窮者自立支援法子どもの学習支援事業 「子どもたちの夕刻を支える夜の居場所 トワイライトスタイル」 ・大津市協働提案制度 テーマ型事業「日中を過ごす第三の居場所 ほっとる一む」 ・仕事に就くための最初の一歩 中間就労「ジョブキャッチ」 ・遊べる学べる淡海子ども食堂推進事業「子ども食堂 eatalk（イートーク）」 ・支援者、ボランティアのための学習・交流会 ・ネットワーク事業 ほか | |
| <p>夕方にセンターを訪問。幸重理事長のほか、同席したインターンシップ学生にも活動参加の感想を伺いました。この日は夜の居場所の日で中学生2名が来所し、教科書を広げて勉強をする子や学生と夕食を調理し食事をとる子、作ったオムライスにケチャップで北海道の形を描いて見せてくれるなど、くつろいで過ごす様子にセンター（スタッフ）への信頼の深さを感じました。</p> | |
| <p>理事長の幸重忠孝さんは、「法整備によって相談窓口や専門機関は整備されてきているが、制度の狭間にいる子どもたちがまだ多くいる」と、子どもたちが暮らす地域内で子どもたちを見守り支えるネットワークづくりにも取り組んでおり、高校生世代の子どもたちが気軽に相談できるスペースとして、滋賀県初の高校内居場所カフェも運営していました。</p> | |
| <p>大津市がある滋賀県は、子ども食堂の充足率が沖縄県に次ぎ 52.5%と、居場所づくりの先進自治体で、単なる財政支援にとどまらず、地域の住民や団体、企業の協力体制など、きめ細かな経営サポートにも取り組んでいます。これから策定される北広島市子どもの貧困対策計画が、子どもたちの日々の育ちと未来へのサポートに役立つものとなるよう政策提案につなげます。</p> | |



| | | |
|--|-----|------|
| ④明石市 あかしこども広場 中高生世代交流施設 AKASHI ユーススペース | 報告者 | 鶴谷聰美 |
| <p>J R 明石駅から徒歩 3 分にある、店舗（物販・飲食・サービス）・クリニック等の複合施設「パピオスあかし」の 5F フロアにある「あかしこども広場」は、子育て支援センター、一時保育ルーム、ファミリーサポートセンター、親子ひろば、そして中高生世代交流施設が開設されている。（4 階フロアは、市立図書館、2 階には市役所の出先機関がある）</p> | | |
| <p>自習、音楽やダンスのレッスンができるスタジオもあり、コンスタントに利用されている。来所の子どもたちの企画イベントも開催されている。平日の昼間は不登校と思われる生徒の来所もあるとのこと。本市の駅西口整備事業において、中高生の居場所の必要性についても子どもたちの声を広く聞く機会を持ち、反映されるようつなげたいと思ったことから、やはり行政視察で整備に至った市民参加の経過等の詳細を調査したかったと、現地を見学して改めて思いました。</p> | | |



| | |
|--|----------|
| ④神戸市 人と未来防災センター | 報告者 鶴谷聰美 |
| 阪神・淡路大震災からの復興を経て、2002 年に開館。未曾有の大災害の被害や貴重な教訓が、全ての展示に込められています。 | |
| <p>施設のホームページに「子どもたちに伝えなければならないことを見ていたらしくことになっています」とセンター長のメッセージがあるように、教訓を観て知る様々な展示が備わっていました。震災後の街を再現したフロアや、地震の揺れとともに建物や交通機関が崩れていく 1.17 シアターの音と画像によるリアルな体験空間、混乱の避難所や復興までの日常生活の様子など、北海道胆振東部地震の被災経験もあったことから、人ごとではない災害の記録に見入った、束の間の観覧時間（2 時間弱）でした。校外授業で来館したと思われる地元中学生の一行と同じコースで見学し、復興後に生まれ育った世代の子どもたちの真剣な表情が印象的でした。</p> | |
| <p>想像を超えていた莫大な被災の様子は、テレビ等の報道でしか目にしたことありませんでしたが、神戸空港までの移動に通った神戸市内の街並みは、たくさんの犠牲と多くの市民の計り知れない苦労と努力の積み重ねによって築かれてきたものと、到着時とは違う思いに浸りながら帰途につきました。</p> | |
| <p>子どもから大人まで様々な立場の市民が、人と未来防災センターのような大災害に関する施設展示を観て（修学旅行等）学ぶことで防災意識の向上につながります。万が一の様々な災害が起き得ることを想定する防災力を高めるため、今後の防災施策のしくみづくりに反映したいと思います。</p> | |
| <p style="text-align: right;">人と防災未来センター ホームページ http://www.dri.ne.jp/</p> | |

